



地区研修協議会によせて

国際ロータリー第 2820 地区
ガバナーエレクト(2020-2021年度)

新井 和 雄

世界史に深く刻まれることとなった新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより、地区内ロータリアンの皆様におかれましては、困難な日々をお過ごしのこととお察し致します。どうぞ、日々健康に留意され、ロータリー活動にも最深の注意を払いながら取り組んで頂きますようお願いいたします。

さて、2021年国際協議会はRI史上初めてとなるバーチャルプラットフォームでの開催となりました。例年のように、世界中のガバナーエレクトが同一会場に集合することは出来ませんでした。その分、開催期間は約2倍の11日間に延長され、各セッションでは発言の機会が多く設けられ、さまざまな議題について世界34ゾーン約540名の同期ガバナーエレクトやロータリーリーダーたちと議論を交わすことができました。その中で、シェカール・メータRI会長エレクトとは、次年度の重点事項として示された「女子のエンパワーメント」について、当2820地区がネパールでおこなってきた貧困女子の就学支援や、国連と協働して広めている防災教育について直接討論させていただき、次年度の計画に貴重な示唆を頂きました。

また、もう一つの重点事項として示された「ロータリー奉仕デー」のセッションでは、2820地区として池田ガバナーが取り組みを始めた、190キロにわたる茨城の海岸線を地区内クラブが協働してクリーン作戦を実施する「2021茨城海岸美化プロジェクト案」を紹介したところ、海に面した多くの国のガバナーエレクトたちが、「俺の国でもやるぞ!」、「世界はつながっている!」と大変な盛り上がりとなり、海洋汚染やマイクロプラスチックの食物連鎖による生態系への影響は、温室効果ガスによる地球温暖化とともに、日本だけでなくグローバルに波及している環境問題である事を実感しました。

さらに、国際協議会を通じて、シェカール・メータRI会長エレクトと信頼関係を築くことができたことにより、当地区のPETSにRI会長エレクトがオンラインでライブ出演してくれるという千載一遇の機会を得、RIの年度目標や2820地区の活動指針、特に「ロータリー奉仕デー」としておこなう茨城海岸美化プロジェクトについて、RI会長エレクト本人から直接指導を受けることができました。これは、困難な状況の中においても、安全な奉仕活動を模索する会員の皆様方のモチベーションを高めるプレゼントになったことと

思います。

そして、シェカール・メータRI会長エレクトから発表された2021-2022年度RIのテーマは“SERVE TO CHANGE LIVES”(奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために)です。

メータRI会長エレクトは、自身が経験した奉仕活動を幾つか紹介され、奉仕は施される者の人生を豊にするだけでなく、同時に与えた者の人生をより豊かにすることを強調されました。なかでも、印象的な社会奉仕活動の場面を振り返り、「私は、この奉仕をおこなったことで、単なるロータリークラブの会員から“ロータリアン”になったのです」と述べられました。この感動のストーリーは、My Rotaryに動画がアップロードされていますので是非ご覧ください。

それらに鑑み、私は2021-2022年度の地区スローガンを“Think Globally, Act Locally”(地球の未来を思い 地域社会に貢献しましょう)とさせていただきました。そして、地球環境保全に地域社会からアプローチし、ロータリアンの、クラブの、地域社会の、国際社会の持続可能な発展に資する奉仕活動を推進することを目標にしました。

これら、メータRI会長エレクトのエピソードや2820地区のスローガンに込めた願意については、研究会やセミナー、そしてクラブ訪問の機会に少しずつ紹介させて頂きたいと思います。

最後に、先行きの見えない禍の真っ只中において、区内会員の皆様には大変なご苦勞があると存じますが、健康を第一に考えながらロータリアンとして日々できることを実行してまいろうではありませんか。



国際ロータリー第2820地区
ガバナーエレクト

新井和雄